

新しいもの、殊にエロラ Elora 窟の彫刻に、之までに見なかつたこの圖像形式の發達を辿るのは極めて容易である。之等石窟寺の壁には、成就文や古密畫の銘文の教へる確かな特質に依つて、主な菩薩をば、此の國で最も屢現してゐるものに止めても、彌勒、觀音、文殊、普賢、金剛力士等を見るが、殊に、摩揭陀とベンカルとでは、佛教的想像の創意的作品が、回教徒の侵入に至るまで、愈増加してゐる。而して順次大菩薩に最も雜多な形を以てしてゐるのみでなく、新しい菩薩を多く造り、女身の菩薩すらあり、例へば、かの多羅 Tara の如き、その變形といひ、その色といひ美しい女身である。かうして人間の魔障を起すもの、中で最も怖ろしいものである女人を神化するだけでは足りいとせず、善法守護の名の下に、男女の魔群が、時には卑猥な一群をなして、私に聖典の間にも入り、印度の禮拜所にも及び、今日でも西藏で之を見るまでになつたのであるが、之については數多の出版もあり、知る事も容易であるから、長く述べる要もない。

然し、新しい神々を一々擧げないとしても、之程佛教美術史を降つて來て